

令和5年度 第62回岐阜県学校保健研究大会を終えて

関市学校保健会

10月29日（日）、関市文化会館において、第62回岐阜県学校保健研究大会を開催しました。

「未来を切り拓く豊かな心・健やかな体を育む学校保健」という大会テーマのもと、研究発表（シンポジウム）と記念講演を行いました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の伊在井みどり様、岐阜県教育委員会教育次長の中川敬三様、本大会実行委員長の山田幸治様よりご挨拶をいただきました。

岐阜県学校保健会表彰では、34名（団体含む）の方が表彰されました。また、学校環境衛生活動優良校表彰では、33校4幼稚園が表彰されました。

研究発表では、テーマを「いのち・多様性を尊重し支え合い、自分らしく生きることを認め合う学校づくり」とし、コロナ禍以前より一層多様化した児童生徒の心の健康問題や性の多様な在り方について、学校、学校医、PTAのそれぞれの立場から実践してきたことをシンポジウム形式で発表しました。

<研究内容Ⅰ>

「心の健康を重点とした、自他のいのちを尊重し、いのちの豊かさを育む教育」を目指した実践を発表しました。まず、学校経営構想を見直し、心の健康教育の充実を学校経営の重点に位置付けました。そして、カリキュラムマネジメントの観点から、教科横断的な視点で性の多様な在り方を含む心の健康教育に係る教育課程を編成し、指導内容間の系統性、領域間の関連性、そして学年間の発展性を意図した指導計画を作成しました。また、各学校の学校保健安全委員会が、関係者による「チーム学校保健」として組織的に機能するよう、活用モデルを作成したことにより協議内容の焦点化が図られ、学校医等からの指導助言を受けた取組の方向性がより明確になりました。

<研究内容Ⅱ>

「性の多様な在り方の理解を重点とした、多様性

を互いに理解し尊重する心を育む教育」を目指した実践を発表しました。まず、取組に当たっては、心の健康を含むいのちの教育とも関連付け、生理的側面、社会的側面、心理的側面の3つの側面から性の多様な在り方についての理解、性的マイノリティの児童生徒の問題の解決を図ろうとしました。なお、性の多様な在り方の理解についても、心の健康教育と併せて、学校課題の1つとして学校経営の重点に位置付け、カリキュラムマネジメントの視点から、学校保健安全委員会を活用した実践を「チーム学校保健」として組織的・有機的に機能した実践を具体的な事例を交えながら発表しました。そして、教職員向けの指導資料「LGBTQ+の児童生徒を理解するために」を作成し、教職員の性的指向や性自認等に関する理解の促進、また、性的マイノリティの児童生徒への対応の充実、さらには性の多様な在り方を尊重し合う学校の環境づくりを進めてきました。今後は、教職員の研修の充実、性の多様な在り方に係る指導計画の作成や医学的見地からのアプローチが可能となる「チーム学校保健」と教育相談の一層の連携が必要と考えています。

記念講演では、「LGBTQ+の児童生徒の存在を認識した学校における対応」と題し、宝塚大学看護学部教授日高庸晴氏にご講演いただきました。学校教育現場における事例を挙げながら、何が問題で、どう対応するべきか？分かりやすくご講話いただき、参加者から「LGBTQ+を正しく理解し、行動していかなければいけないことを再認識した」などの声を多くいただきました。

このように本大会が、有意義で充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜物と心より感謝いたします。

最後になりましたが、今後の岐阜県学校保健会の更なる発展を祈念いたしまして、第62回岐阜県学校保健研究大会の報告と致します。